

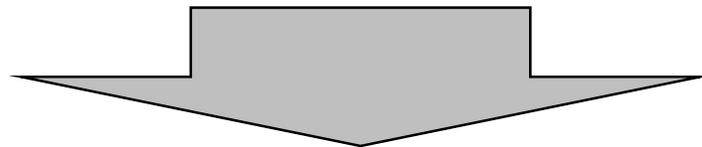
# 需要想定要領の変更について（案）

2019年度第1回評議員会資料

2019年4月25日

1. 想定方法の説明性向上に向けた変更
  - 複数の想定方法の中から基本的な方法を明示
  - 基本的な方法以外の方法に拠る場合、理由を明記
  
2. 業務規程・送配電等業務指針に合わせた変更  
(表現の簡素化・明確化含む)

- 現状の需要想定要領は、2015年に制定した際に、従前より旧一般電気事業者が実施していた需要想定方法を踏襲できるように定められており、いくつかの想定方法が併記されている。
- 想定方法の選択理由が明確にならないまま各社にて想定作業を行っていたことから、エリアごとに想定方法のバラつきがあり、需要想定に対する説明性が乏しかった。



- 各エリアの想定方法について、複数ある方法のうち、どの方法が最適かを検証した結果、**想定方法を揃えられたもの（5,6スライドに例を示す）と、揃えられなかったものがあった。**
- この検証結果を踏まえ、想定方法を揃えられたものについてはそれを**基本的な想定方法として明示**することとし、基本的な想定方法を使用しない場合については、その**理由を明らかにすることとした。**

□ 想定方法を揃えられたもの ※表中の丸数字については5,6スライドを参照

□ 地域特性があり、揃えられなかったもの ※IIP;鉱工業生産指数、KP3;第三次産業固定資本ストック

	2017年度需要想定					
	最大 需要電力 【kW】	需要電力量【kWh】			業務用	産業用 その他
		家庭用 口数	その他 原単位			
A社	②	③	時系列	時系列	IIP	
B社	②	④		時系列	<u>需要数× 原単位</u>	
C社	①	③		GDP	IIP	
D社	②	③		KP3	IIP	
E社	①	③		時系列	<u>時系列</u>	
F社	①	③		KP3	<u>IIP 時系列</u>	
G社	①	③		KP3	<u>IIP 時系列</u>	
H社	②	④		時系列	<u>IIP 時系列</u>	
I社	①	③		時系列	IIP	
J社	①	④		時系列	<u>時系列</u>	

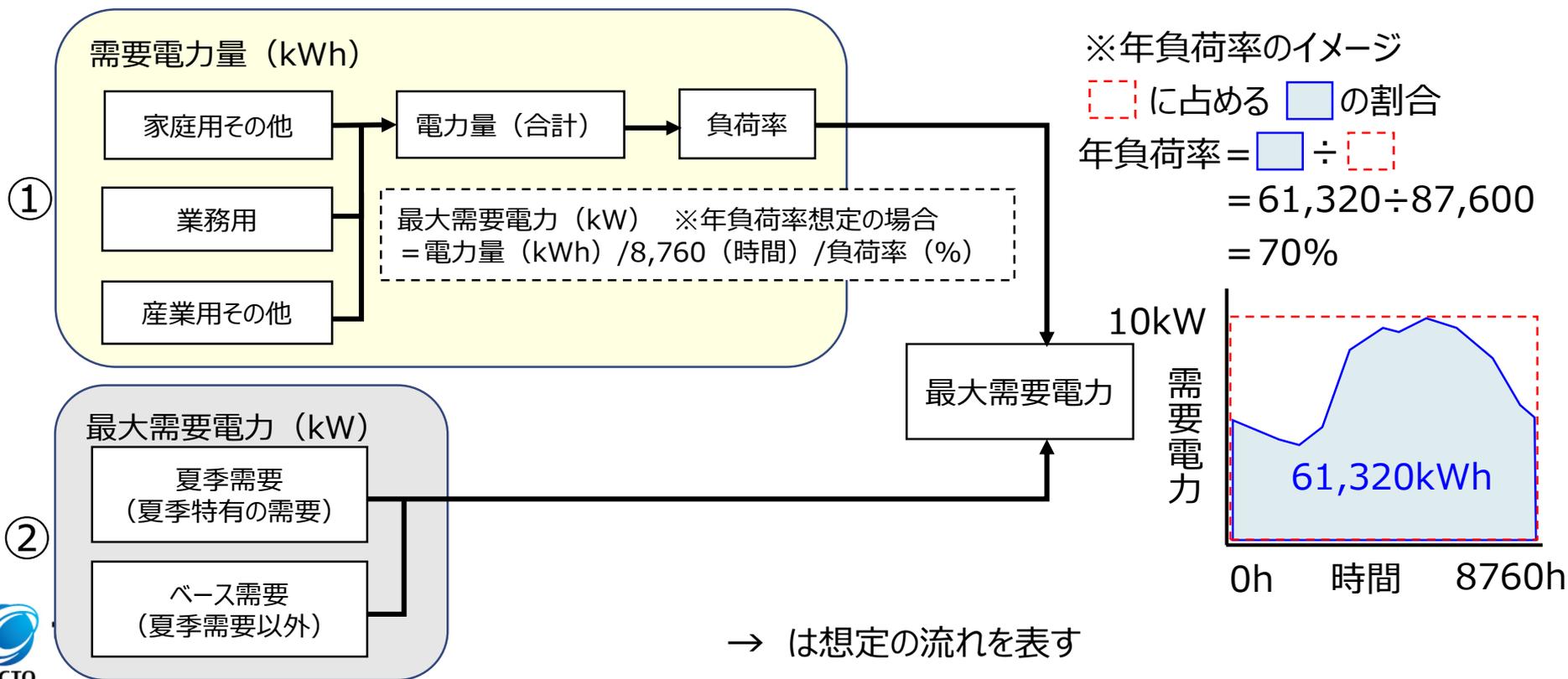
どの想定方法が最適か検証



	2019年度需要想定					
	最大 需要電力 【kW】	需要電力量【kWh】			業務用	産業用 その他
		家庭用 口数	その他 原単位			
	①	③	時系列		GDP	
				GDP	IIP	
				GDP 人口 時系列	IIP	
				GDP	IIP	
				GDP	IIP	
				時系列	<u>IIP</u>	
				KP3	<u>IIP 時系列</u>	
				KP3 時系列	<u>IIP 時系列</u>	
				時系列	<u>IIP 時系列</u>	
				GDP 時系列	IIP	
	時系列	<u>時系列</u>				

- 最大需要電力の想定については、2017年度需要想定ではバラツキがあったが、どの想定方法が最適かを検証した結果、2019年度需要想定では、全てのエリアで①**需要電力量と負荷率による方法**が最適な想定方法となった。

想定方法	2017年度需要想定	2019年度需要想定
①需要電力量と負荷率	6エリア	10エリア
②需要電力の積み上げ	4エリア	-

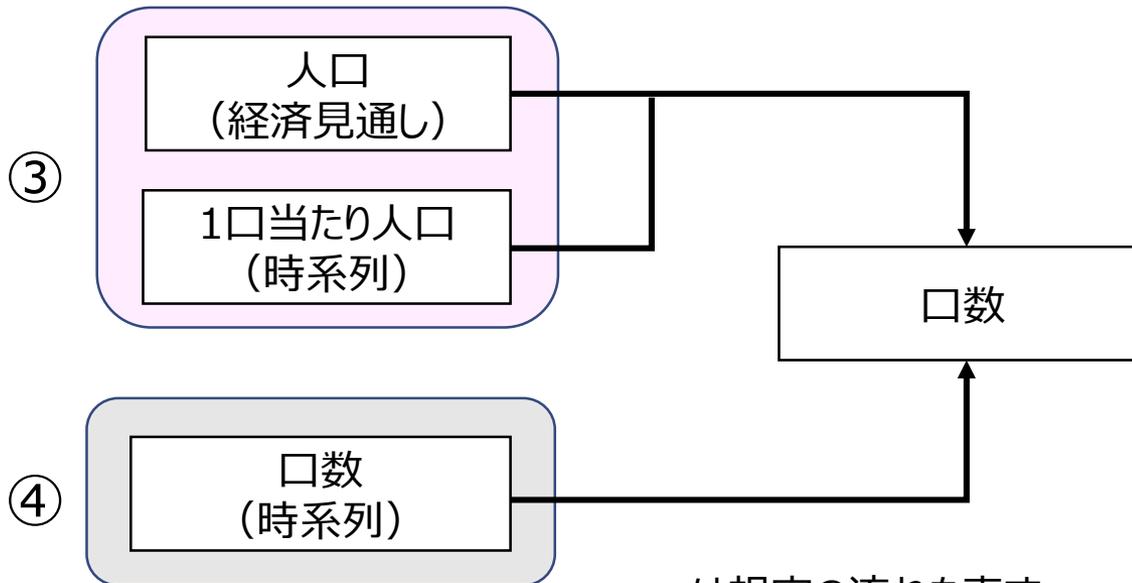


# 想定方法を揃えられたもの 事例2：家庭用その他電力量6

- 家庭用その他電力量は、口数×原単位【kWh/口】※により想定しているが、口数の想定については、2017年度需要想定ではバラツキがあったが、どの想定方法が最適かを検証した結果、2019年度需要想定では、全てのエリアで**③人口÷1口あたり人口による方法**が最適な想定方法となった。

※口数とは、家庭用・街路灯などの契約口数。原単位は1口当たりの使用電力量。

想定方法	2017年度需要想定	2019年度需要想定
③人口÷1口あたり人口	7エリア	10エリア
④口数の時系列傾向	3エリア	—



→ は想定の流れを表す

- 上位規程の変更等により、需要想定要領及び同要領に付帯する電力調書記載様式の表現も変更する。（詳細は需要想定要領 新旧対照表のとおり）
  - 主な変更箇所
    - 冬季需要想定を検証の提出について、これまで、冬季に年間の最大需要電力が発生するエリア（現時点では2エリアが対象）を対象としていたが、**全エリア**対象に変更
    - 気温補正→**気象**補正